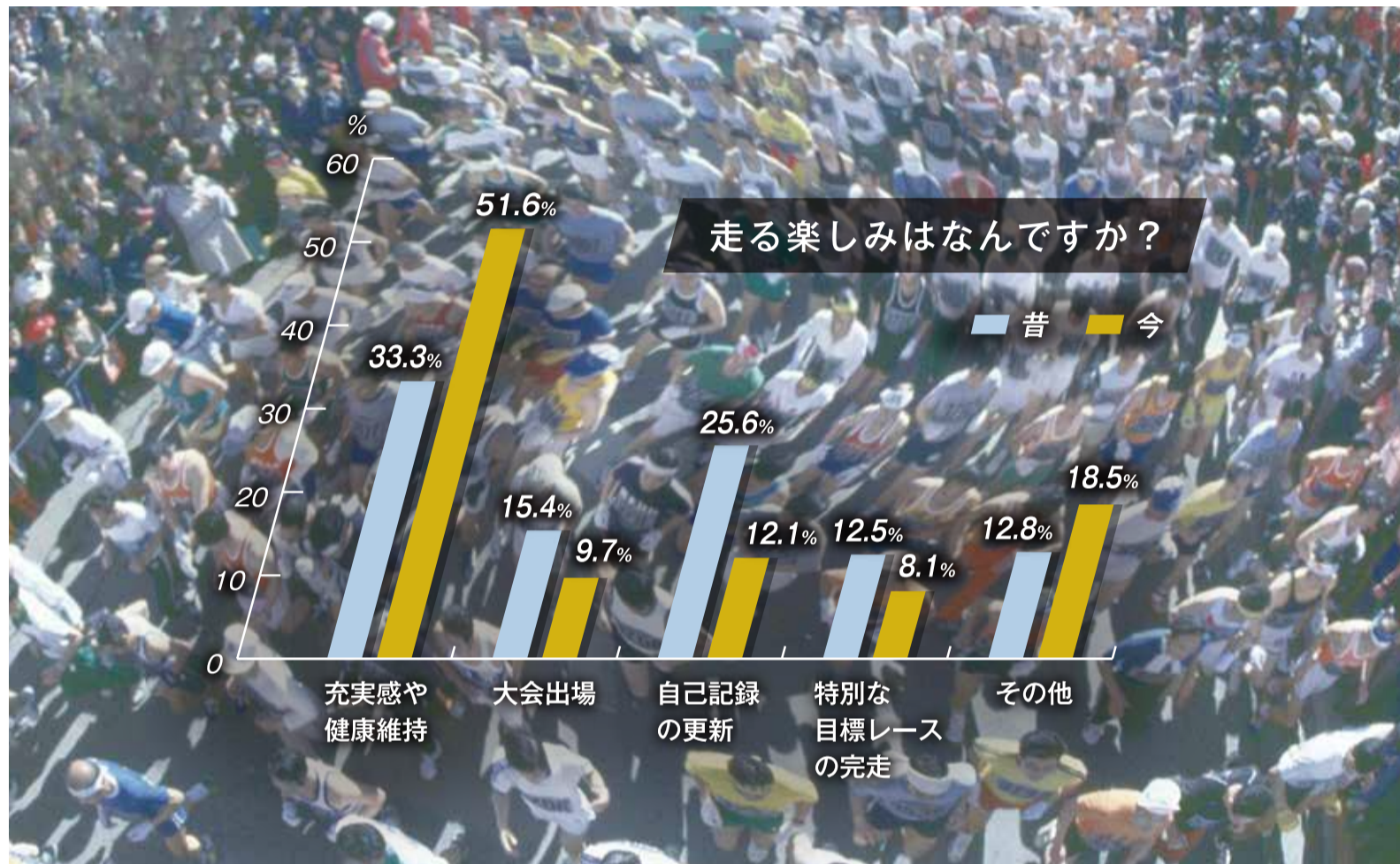




ランナース財団

NEWS

Vol.3

公益財団法人ランナース財団
公式ホームページ

いま、走る楽しみはなんですか？

30年前、チップタイムの出現により、大会の記録や順位を走った後、瞬時に知ることが可能になった。それまで早くて数時間、通常は数日後に知られることがフツウであった。なにより数十分のスタートタイムロスが無くなったことで、大会出場の楽しさが倍増した。さらに2000年代後半には、東京など大都市での制限時間の緩いシティマラソンが誕生。大会によっては30倍以上の狭き門となり、全国の県庁所在地に瞬く間に広がった。ウルトラマラソン、トレイルランも野火のように広がっていった。厚底シューズの出現は市民ランナーにも記録更新の楽しさを提供した。そして「コロナ」大会は一旦萎んだ。今、その回復途上にある。

スポーツ競技として、そして生涯スポーツとしてのランニングはこれからどこに向かうのか。

走歴10年以上の市民ランナー200人に、「昔と今、走る楽しみは変わってきたか？」を尋ねた（回収数は69件、実施期間：2026年3月）。回答は選択式・複数回答可。

また、アンケートのほかにランナーの個々の意見、そして山西哲郎氏と、過去最高の参加人数を集めたホノルルマラソン協会・バラハル会長と日本事務局の意見を聞いた。

市民ランナーへの設問「昔と今、走る楽しみは？」に以下の選択式回答を用意した。

① 走った後の充実感や健康維持
② 大会出場
③ 自己記録の更新
④ 東京や大阪などの大型大会、あるいはウルトラマラソンなど特別なレースへの出場・完走
⑤ その他（記述式）。

最も顕著な回答が③の「自己記録の更新」の変化。かつては4人に一人だったのが9人に一人と半減以下になった。

一方で「充実感や健康維持」は3人に一人が2人に一人と増加している。

同じく「大会出場」は6人に一人から10人に一人と、こちらもほぼ半減。

さらに「大型大会など特別なレースの完走」も9人に一人から3割ダウンの12人に一人と減っている。

これらの数字は、加齢とともに走力低下などにより、大会出場といったイベント参加から日常のランニングへ関心が移行している姿が見て取れる。

普段の、走ることによって得られる充実感には記録向上や大会出場が楽しさの中核であったが、記録向上の限界、また希望する大会にも出場が叶い、大会出場への関心度に変化が表れたと言えるだろう。

CONTENTS

I 特集「いま、走る楽しみはなんですか？」

- » アンケートからランナーの声を紹介
- » 過去最高参加者数のホノルルマラソンに聞く
ホノルルマラソン協会／ジム・バラハル会長
日本事務局／北村次郎事務局長
- » 山西哲郎「共に走り 共に学ぶ」

- 3 ランニングUSA 2026 視察レポート
- 5 市民ランニング史 第2回「ボストンマラソン」
- 6 HOT NEWS » 「ALPEN RUN が明治公園に」他
- 7 2026年「第36回ランナース賞」募集開始
» ランナース財団からのお知らせ

アンケートに寄せられたランナー個々の記述回答を紹介する。

練習会を楽しむ週末

走歴10年 53歳 男性
爽快感を求めてジョグだけしていましたが、週末に練習会へ行くようになりまし。やはり走る基本は「楽しさ」で、ポイント練習の中にも楽しさを見出せるようになったのかもしれないです。最近SNSやウェブ、雑誌などいろいろあり、またコロナ禍をきっかけに大会の事前受付がなくなっ。詳細案内もウェブ掲載やPDFが中心。情報媒体の多様性と簡素化を感じます。

長年、球技のためのトレーニングでしかなかったランニング。50歳過ぎくらいから楽しくジョギングできるようになったのは、イヤホンの進化のおかげだ。昔は、とにかくランニングは飽きる、単調、これだけだった。でも、いまはコードレスのイヤホンをして好きな音楽をかけて走れる。スマートウォッチに入れているから本体機器も必要ない。ここ10年は、走り出るのが本当に楽しくなった。

ガジェットの進化のおかげ

走歴25年 63歳 男性
長年、球技のためのトレーニングでしかなかったランニング。50歳過ぎくらいから楽しくジョギングできるようになったのは、イヤホンの進化のおかげだ。昔は、とにかくランニングは飽きる、単調、これだけだった。でも、いまはコードレスのイヤホンをして好きな音楽をかけて走れる。スマートウォッチに入れているから本体機器も必要ない。ここ10年は、走り出るのが本当に楽しくなった。

忙しくて大会参加が減った

走歴15年 46歳 男性
自分の体力低下と仕事の忙しさから、マラソン大会に沢山参加できなくなった。コロナ後に24時間ジムができたので走ることを継続できた。エントリイ代が上がったし、地方マラソンに出たいが…。ゴミを残すなどランナーのモラルが下がったように思います。

10の歳で自己ベスト更新が教えてくれること

走歴11年 53歳 女性
数分ずつ徐々に自己ベストを更新していったら、少し先の目標タイムを切る事ができるようになってきました。この歳でもベスト更新できるんだっていう事実は、無意識のストッパーを外してくれました。もうここであきらめることはできません。私のチャレンジャーも続けたい！

運営上手な似た大会ばかりかな

走歴25年 64歳 女性
新しく誕生する大会は、いろいろな大会を研究した上で運営されているので大きなミスもなく、合格点。「よかったよー」なんて感想も聞きます。でもそれが逆に個性がなく、どれも無難な感じがします。

昔と今、変わったと思うことは？

ハンコを押したみたい、開催地のご当地エイドがあって、地元学生の応援ボランテアがあって、ゲストランナーがいて、ペースランナーがいて…景色が変わるだけ？のような大会が全国で誕生している…なんか、ものたりない。

自己記録更新ができなくても

走歴30年 61歳 男性
30〜40代は自己記録更新が一番の目的だったので、48歳以降、自己記録が更新できなくなっから走るモチベーションは下がりました。しかし、50代半ば頃から少しずつ意識が変わり、健康で文化的にアクティブに生活していくための自分の根底にランニングがある、と思うようになり、再び愉しく走れるようになりまし。60代を迎えて、その想いはさらに強くなっています。

「道具」に走らされていないか？

走歴40年 67歳 男性
便利な時代になって、スマホ、アプリ、GPS時計など走る「道具」が増えて、それらに振り回されて走らされている。時間が経ち歳をとつても、ただその時その時を走れば、十分に自分を充足させられる。そう思い、ただひたすら走るだけです。

自由と創造がランニングの魅力

走歴40年 63歳 男性
トレーニングはガミン先生が教えてくれる、ランニングフォーラムはユーチューブに溢れている、ペース配分はペーサーにお願いする、マラニックやトレランはイベントとしてパッケージ化されている、大会は個性よりも至れり尽くせりの横並び…。ランニングの魅力は自由と創造にあるはずなのに、工夫、試行錯誤、創造することが失われていく一方に思えます。

80代。時間走を楽しんでいます

走歴46年 84歳 女性
昔、ウルトラマラソンや大阪国際女子に出ていたころは、月間走行距離が600〜700kmくらいでした。いまは距離もペースも測らず、毎日のちよつとした時間にジョギングをするほか、週2回ほどの3時間走や4時間走。85歳になる今年には制限時間のないホルルマラソンに出る予定で、そのあとはマラニック(マラソン+ヒクニック)を楽しもうと思っています。

50年近く走ってきて、変わらなこともありません。それは、走ることが、呼吸のように当たり前で生活の一部だということ。家族とは「走るために生きているのか」なんて言つて笑っています。

共に走り、共に学ぶ 山西哲郎

「ゆっくり走」のための技術、スピード、服装、シューズ、場所…と代々木公園の風に吹かれながら、僕は創り上げていった。宮城教育大学の学長であった林竹二氏が「学ぶ」ということは、覚えこむこととはまったく違う。学ぶとは、いつでも何かが始まることで、終わることのない過程に「一歩踏みこむことでもある」と述べられたのと同じことを、この市民ランナー指導を通して僕は教えられた。「学ぶとは、いつでも何かが始まることである」と。その根底には走った時の感動があり、その感動が何か新しいものを提案してくれる。つまり、それは「楽しく走る」ということだ。人は苦しむために走るのではなく、楽しむために走るの

「歩くようなスピードだと意外と長く走れるものです。一周六分のゆっくりしたペースだと気持ちいいです」

「やっぱり歳をとりました」「走ることはいつでも苦しいものなんです」

「ゆっくり走」のための技術、スピード、服装、シューズ、場所…と代々木公園の風に吹かれながら、僕は創り上げていった。宮城教育大学の学長であった林竹二氏が「学ぶ」ということは、覚えこむこととはまったく違う。学ぶとは、いつでも何かが始まることで、終わることのない過程に「一歩踏みこむことでもある」と述べられたのと同じことを、この市民ランナー指導を通して僕は教えられた。「学ぶとは、いつでも何かが始まることである」と。その根底には走った時の感動があり、その感動が何か新しいものを提案してくれる。つまり、それは「楽しく走る」ということだ。人は苦しむために走るのではなく、楽しむために走るの



山西哲郎 (やまにし・てつろう) 群馬大学名誉教授。日本に「市民ランナー」が登場したときからの指導者。東京教育大学(現 筑波大学)在学中には箱根駅伝に出場。1943年生まれ。



through the new wave

ホノルルマラソンが示す 「新しいランニングの時代」 ——過去最高参加者数の背景を探る



2025年のホノルルマラソンは、過去最高の参加者数4万2962人（うち日本人1万1984人）を記録した。従来のフルマラソン参加者だけでなく、ウォーキング部門を含めた広がりを見せ、さらにかつてのように日本人中心ではなく、より国際色豊かな大会へと変化している。

ホノルルマラソン協会のジム・バラハル会長は、近年、ランナーの意識そのものが大きく変わったことを指摘する。20〜30年前のランナー像と現在を比較した際、最も大きな違いは「ソーシヤル化」だという。かつては記録を追い求めるストイックな文化が主流だったが、現在は「より社会的で、体験を楽しむ」参加者が増えた。女性ランナーの増加も顕著であり、ランニングは特定の層の競技から、より開かれたアクティビティへと変化している。また、SNSの普及により、参加体験を共有すること自体が価値になっているという。

去った。これは新しい世界だ」と述べている（出典：Tomi Reavis, 2025）。ここで言う「終わった世界」とは、高い走行距離を積み、速さを追求するランニング観である。

現在のランニングにおけるムーブメントは、楽しさやコミュニケーション性が重視されるようになった。こうした変化に加えバラハル氏は、強みとして「ハワイという場所の魅力」を挙げる。人々が訪れたいと願う気候風土の地であることに加え、アロハスピリッツに象徴されるボランティア精神。また、視覚的な魅力が強く、体験をSNSで共有したくなる環境が整っている。元々ホノルルマラソンは心臓病専門医の「フルマラソンをゆっくりに長く走ることが、心臓病のリハビリや予防につながる」という考えから始まった大会であり、タイムに関係なく「フータイムリミット」すべての完走者が称えられる。「誰もが歓迎され、誰もが特別な存在として扱われる」ことが徹底されている。



1981年大会のフィニッシュ風景。大会のメインコンセプトは今も変わらない

「古い世界の終わり」と深く関係している。海外メディアのインタビュウにおいて氏は、「あの世界は終わった。とっくの昔に消え

結果として、ホノルルマラソンは「参加すること自体に価値があるイベント」へと進化した。ウォーキング部門の拡充も、その延長線上にある。フルマラソンに限定しないことで、より幅広い層を取り込み、参加のハードルを下げている。

ホノルルマラソン日本事務局が見てきた40年

「日本人ランナーの姿は、この40年で本当に大きく変わりました」そう語るのは、1979年から大会に関わり続けてきたホノルルマラソン日本事務局代表の北村次郎氏だ。90年代には日本人参加者が2万人を超え、全体の3分の2近くを占めた時代もあった。当時は「挑戦」「感動」といったワードが強調され、テレビ中継を見て憧れを抱き、紙のエントリー用紙を郵送する参加スタイルが主流だった。同じく日本事務局で長年運営に携わる高橋直子氏は、「特に女性の参加意識が変わりました。ランニングが、自分のライフスタイルの一部としてとても自然に組み込まれるようになった。人気のある女性タレントが日頃からこつこつと練習を重ねホノルルマラソンへ——そんな姿も後押しになり、ランニングは（海外のホノルルマラソンでさえも）『日常の延長』へとシフトしていった、という。」

さらに、コロナ禍が新しい波を重ねた。

2020年の大会中止を経て、回復期に広がったのが「ランニング・イズ・クール」という潮流だ。北村代表と高橋氏は「コロナ以降、若い世代が『リアルな体験』『リアルなコミュニケーション』をこことさら求めるようになった」と感じている。そして、その欲求の行き先が他のエンターテイメントではなく「ランニングしよう」になっている。

一つには、ランニングが「健康的で、かつSNS映える『安全なリアル』」として機能していることがあるという。身体を動かしながら人とつながり、写真や動画で共有しやすく、しかも世代や属性を問わず参加しやすい。夜の遊び場よりも、価値観を共有できるコミュニティの中で、自分を表現したい——そんな感覚が強まっている。北村代表は「欧米の他の大会でも、若者の参加が増えている」と話し、これは世界的なトレンドだと見ている。

こうした価値観の変化は、ホノルルマラソンの理念と相性が良い。「いまの日本人ランナーは、走る理由が一つじゃない。健康、美容、旅行、コミュニティ、自己表現……その多様こそが時代の象徴です」

日本事務局が見続けてきた40年の変化は、ホノルルマラソンが「なぜいま再び選ばれているのか」を物語っている。



日本事務局の北村次郎代表。1983年の第11回ホノルルマラソンが自身にとっての初フルマラソンだった

ハワイは大会以外でもインスタ映え、絵になりやすく、それらも人を引き付ける



ランニングUSA 2026 視察レポート



全米最大級のランニング業界向けカンファレンス

ランニングUSA 2026は、ミズーリ州セントルイスで2月1日から3日まで開催され、3日間・60名のスピーカー・53セッションと過去最大レベルのものとなった。大会主催者、グッズブランド、メーカーなど、ランニング産業の幅広い関係者が全米から630人集まり、最新のトレンド、イベント運営、テクノロジー、コミュニティづくりについて議論が行われた。日本からは公益財団法人ランナース財団が参加した。

業界活性化のために行われている「若手ディレクター表彰・Rising Star Award」。"次世代を育てる"という意図が強く感じられる

ランニングUSAとは

この会議は1999年に初回が開催された。開催目的は、大会運営、集客、マーケティング、スポンサーシップや収益モデル、テクノロジーなどの業界ノウハウの共有化。さらに主催者、自治体、スポンサー、テック企業とのネットワークを作り、互いの情報交換を通して今後の動向を探るといったもの。それまでは全国の大会参加者数などのデータが共有されていなかったが、この会議でそれらを把握。結果、スポンサーメリットを数字で示すことが可能になり、協賛企業が増加するなどの効果を生んできたという。

このような活動を行うため、組織としては非営利組織になっていて、運営のメンバーも大会主催者やメディア、スポンサーなどから選出されている。今年もセントルイスのユニオンステーションホテルが会場になっていた。各セミナーはそれぞれの会議場で開催され、分科会に参加者が選んで出席する形式だ。ホテルはかつての駅舎を改修しており、中央部のコンコースは各種業者の出展場所になっていた。

毎日、会議終了後に会場近くを走るミニマソン大会が開催され、会議参加者はこぞって参加していた。セミナー参加だけでなく、走る交流の場になっていた。

学び・出会い、最新テクノロジーの発表

ランニングUSAの今年の柱は「安全性の強化」「自動化・効率化」「初心者層への対応」「サステナビリティ（環境配慮）」。パネルディスカッションや各セッションを通して、これらテーマに実務ヒントが挙げられた。そのいくつかを紹介する。

1 安全運営：最低限やるべきこと

- ① AED配置の「見える化」と動線設計
- ② ボランティア向けの「心停止時の初動」簡易トレーニング
- ③ 救護所の役割分担（トリアージ・記録・搬送連携）

「心停止は必ず起る前提で準備する」が共通認識として強調されていた。

基本的な救護体制、スタッフ救護活動のトレーニング、トリアージ（治療の優先順位）の重要性、AEDの可視化といった救護業務の強化が繰り返し語られた。救護スタッフのGPS管理など、日本での大型大会運用と大きな差はない内容だったが、安全性の確保が最優先事項という考えは万国共通ということを示していた。

2 人手不足対策：運営業務の中で自動化できる領域

- ① エントリー・決済・メール配信の自動化
- ② 受付の二次元コードチェックイン
- ③ 計測会社とのデータ連携の標準化
- ④ 完走証の自動発行

エントリー、集計管理、データ処理、広報データ作成、メール配信などランニング大会に特化した生成AIを導入して、スタッフによるコストと手間の削減を実現しているようだ。アメリカでは「人手でやる理由がない作業」を徹底的に排除。事務局疲弊を減らす運営方法の追求は、一歩先を行っている印象を受けた。今後、大会運営へのこうしたシステム、AI導入は日本でも主流になっていくと思われる。

3 参加者を増やす…初心者やウォーカー向け施策

- ① 距離の短い部門の充実（5K/10K/ウォーク）
- ② 「完走より参加」を祝福するメッセージ設計
- ③ SNSでの参加者ストーリー紹介

競争しない参加者の増加という潮流が目に見えて増え、「ランニングII ウェルビーイング」の考え方が大きな流れになってきている。応援の観客を含めた「大会に参加するすべての人が主役」という視点である。この視点はまだ日本では大きな流れになっていないが、参加者が頭打ちになっている日本の現状では、今後注目する運営方法になる印象を受けた。好記録を出したり、完走率を上げたりすること以外に、

素晴らしい体験を共有することに軸足を置くという考えだ。

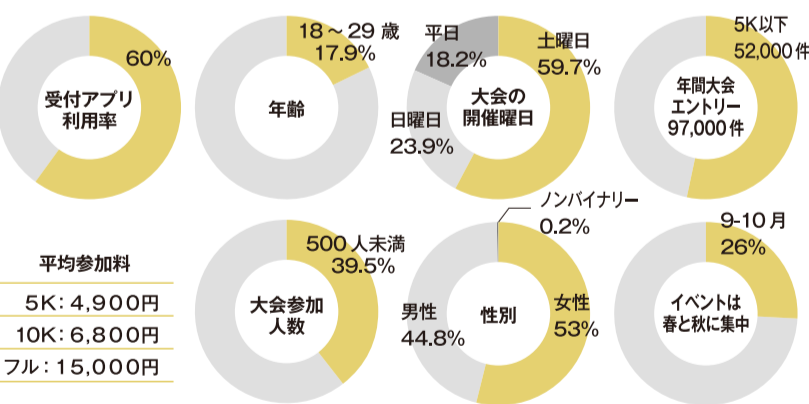
4 サステナビリティ…低コストでできる改善

- ① Tシャツの「事前サイズ確定」で在庫口削減
- ② メタルの素材変更（再生素材・木製）
- ③ 給水所の紙コップ削減（行動変容）

アメリカでは「環境配慮」スポンサー獲得の武器にもなっている、という事例報告で、環境に対する意識や対策は日本より一歩進んでいると思える。日本では、制作物を再生素材にシフトすると現状ではコスト増となる場合が多いため、環境対策へのシフトは遅れがち。しかし、今後は日本の大会も環境対策は避けて通れない課題になってくるだろう。

アメリカ国内のランニング大会事情

アメリカで開催されているロードレースで現在約50%のシェアを誇る（年間9万7000大会、利用者約800万人）エントリー専用サイト「ラン・サインアップ」が、2025年のアメリカ国内のランニング大会を分析した。



記録計測企業の比較 ※参考：各社公式ホームページより

企業名	得意規模	計測方式	ライブ速報	日本での導入しやすさ	特徴
マイラップス MYLAPS	大規模	UHF トランスポンダー	◎	◎	世界標準、安定性
レースリザルト RACE RESULT	中規模	UHF	◎	○	コスバと柔軟性が高い
クロノトラック ChronoTrack	中～大規模	UHF	○	△	北米での実績が豊富
タイミングセンス timingsense	小規模	UHF（軽量）	○	△	軽量・ポータブルで扱いやすい
オービター Orbiter	小規模	RFID+GPS	△	△	ウォーク、ファンランに適する
ブルックシータイミング Brooksee Timing	小～中規模	UHF	○	×	運営者目線のノウハウが充実

※大規模…5,000人以上、中規模…1,000人～5,000人

参加者女性比率(53%)、若年層比率(18%)、短い距離部門(5K以下)エントリーの全体占有率(約54%)が日本の大きな相違点である。特に女性参加でいえばアメリカでは男性より多い。日本ではまだ参加者増加の余地が大きいとも言え、女性の参加率の向上は、業界一丸となって取り組むべき課題と思える。大会参加料は、平均値で比較するとアメリカとの差は小さくなっている。

AIによるデータ分析が活発

欧米の大型大会では、過去のエントリーデータ（年齢層、申込時期、参加料など）をベースにAIを活用したエントリープラットフォームや、AI分析ツールを用いるようになってきている。大会価値、大会規模、大会予算に合わせた適正な参加料算出や特定の年齢層の集客手段の提案など、大会運営上の問題解決に効果を発揮している。

事例 レッツ・ドゥ・ディス社

ロンドンに本社を持ち、北米トップ100レースのうち20以上の大会と提携。北米および欧州で急成長をしている同社の「ノバ（NOVA）」というAI分析ツールは、マーケティング戦略立案を得意とし、イベントの立ち上げから開催日まで、主催者を支援するよう設計されている。



講演後のレッツ・ドゥ・ディス社メンバー

事例 ハク社

エントリーおよび参加者データの管理から、集客のためのSNS連携、メール配信、大会当日の受付情報や記録管理の大会運営業務まで、1つのプラットフォーム上で効率的に作業できるようなソリューションを提供している。従来バラバラで作業していた業務を、クラウドで一括管理できるのが強み。



ハク社 CEO のジャクリン・レビ氏

事例 ラン・サインアップ社

アメリカ国内では最大級のエントリープラットフォームで、簡単に使用できるクラウド型の大会運営システムを提供している。低コスト導入および記録計測会社とのシステム連携の実績が豊富にあり、小規模な大会が同社の分析ツールを使用している事例が多く見られる。



ラン・サインアップ社マーケティングディレクター、ヨハナ・ガード氏

アメリカではランニングがひとつの産業として認知されているため、大会運営のためのソリューションパッケージシステムが複数開発販売されている。メディア戦略まで導き出すこともでき、日本での開発余地が大きいことを示している。

メダルの価値は高い

ランニング大会でのチャリティー文化が定着しているアメリカでは、メダルは完走賞としての意味と同様に「社会貢献の証」でもあり、コレクターアイテムとして価値が認められている。ランニングUSAにも多くのメダル製作会社が出展し、様々な工夫を凝らしたメダルが紹介されていた。今回5社が出展しており、LED照

EXPO 出展または協賛企業

● エントリー・大会管理システム

- haku
- ACTIVE Network
- Race Entry
- TicketSocket
- EventHub
- TRACX
- GoFundraise



● タイム計測関連

- MYLAPS
- RACE RESULT
- ChronoTrack
- Orbiter
- timingsense
- Brooksee Timing
- ONETIME

● 機材・運営サポート

- ALL-COMM Technologies (通信・無線)
- Electronic Beacons Systems (ビーコン)
- Hightech Signs (看板・サイン)
- National Construction Rentals (機材レンタル)
- MarathonFoto (写真撮影)
- Fotop (写真関連全般)
- Joffe Emergency Services (救護・安全管理)
- Cogent Steps (救護トレーニング)

● アパレル (参加賞Tシャツ)

- Alanic International
- Leslie Jordan
- Headsweats
- Scimitar Sports
- Sportswear Unlimited
- Recover Brands (サステナブル)

● メダル・印刷関連

- Ashworth Awards
- Maxwell Medals & Awards
- Badges And Medals
- Boulder Bibs (ゼッケン)
- AMI Graphics (デザイン全般)
- Marathon Printing (グッズデザイン)
- BibBoards (ゼッケン留め等)

● その他

- Runna (トレーニングアプリ)
- New Continent (国際物流)
- emediagroup (マーケティング)
- HAWI Management (エージェンシー)

明をつけてみたり、動きをつけたり、セット組にしたりと工夫を凝らしていた。大会規模に関わらずメダルに対するプライオリティが高く、完走賞としての地位を確立している。



様々なサンプルが陳列されていた。共通するのは、大型かつカラフルで大会の特徴が一目でわかること

記録計測システムの小型化

アメリカ国内には多様な計測方法が存在し、多くの計測会社が事業を行っている。設置を簡易にするため機材の小型化およびオールイン化は年々進み、ポータブルで設置しやす

いものには特にウオークイベントやトレイル、地域密着型イベントで優位性を発揮することも。大規模大会での高精度計測だけでなく、ライブ速報の早さやアプリ連携の有無なども含め、記録計測企業それぞれに「得意な大会規模や内容」といった個性、特徴が感じられた。

日本の電波法に適合する必要があるのでもそのまま使用することはできないが、計測機器の小型化は設置時間の短縮につながるため、道路交通規制の厳しい日本ではこのトレンド



アンテナ/受信機一体型 (クロノトラック社)



手のひらサイズの受信機(マイラップス社)

ランニングUSA開催の意義

ランニングUSAカンファレンス事務局の責任者、マイク・ニシ氏に話を聞いた。

「今回は初参加者が多かったのが印象的。情報共有の関心の高さを感じます。若手リーダーのためのプログラムを用意したのも新たな試みでした。」

は広がっていくだろう。

ランニングUSA2027 情報

開催地：オーランド (フロリダ州)
開催日程：2027年2月7日~9日 (予定)

来年の開催地オーランドはアクセスが良く、会場ホテルも大型で日本からの参加者も動きやすい都市。参加登録は夏頃に始まるので、いまから公式サイトで無料会員登録をし、メールで届く最新情報を逃さないようにしたい。参加料は、今年2026年が1,050ドルだった。

<https://www.runningusa.org/>

今後どのような形でアメリカ国内のランニング大会が進化していくのか、注視したい。

「求められているのです。コスト削減もそうですが、エントリー、資金調達、スタッフ管理、サブイベント運営など、一貫通質なプラットフォームを形成することが必要だと考えます」と語ってくれた。

■ エントリー・大会管理システム企業の比較 ※参考：各社公式ホームページより

企業名	得意規模	エントリー	決済	当日受付	CRM	スポンサー管理	寄付	特徴
ハク haku	大規模	◎	◎	◎	◎	○	○	自動化が強く、事務負担が軽減
アクティブネットワーク ACTIVE Network	中~大規模	◎	◎	○	○	△	△	世界最大級の安定基盤
レースエントリー Race Entry	小~中規模	◎	○	○	△	×	×	コスパが良く、小規模向け
チケットソケット TicketSocket	中規模	◎	◎	○	△	△	×	決済機能に強い
イベントハブ EventHub	大規模	△	△	×	△	◎	×	スポンサー、EXPO管理に特化
トラックス TRACX	中~大規模	○	○	△	◎	△	×	データ分析・改善に強い
ゴーファンドレイズ GoFundraise	全規模	×	○	×	△	×	◎	寄付連携に特化

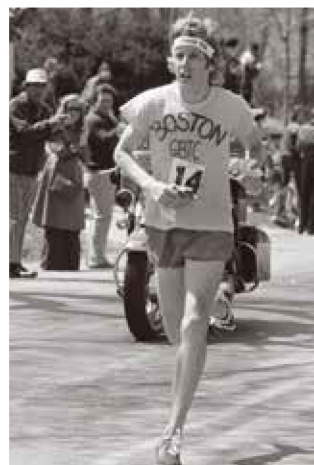
※大規模...5,000人以上、中規模...1,000人~5,000人



※CRMとは Customer Relationship Managementの略であり、日本語では「顧客関係管理」と訳される。ランナー情報の一元管理、メール配信、セグメント別コミュニケーション、データ分析、スポンサー価値の可視化を可能にし、運営負担の軽減や参加者満足度の向上につながる



ゴールは人で溢れた。計測を待つランナーの列。フィニッシュラインは画面下にある



優勝したビル・ロジャース (タイムは2時間9分55秒)



スタート前の山田敬蔵さん

市民ランニング50年

第2回

50年前のボストンマラソン



一般出場の女性も多くなったがまだ33人だった。男子は1547人が出走



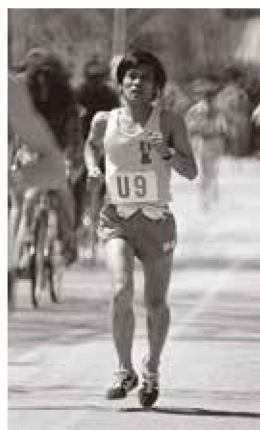
佐々木生道さんは市民ランナーのはしり。ホノルルマラソンも日本からの最初の出場者

1975年4月、ホノルル、ロサンゼルス、ニューヨークと乗り継いでボストン空港に降り立った。山田敬蔵さんと日本の市民ランナー13人がボストンマラソンを走るという取材だった。同行した妻の下条(現 公益財団法人ランナーズ財団名誉理事長、雑誌「ランナーズ」初代編集長)は前号の財団ニュースでも紹介したようにすでに皇居を日ごろから走っている編集者で、いつかは走る雑誌を出したい、という願いがあり、世界で最も歴史あるマラソン大会でもあるこのボストン大会は格好の機会だった。前年の74年に日本人女子として初めてボストンマラソンの女子優勝者となった美智子ゴーマンさんも、ロサンゼルスから応援に駆け付けていた。出産のため今年には走れない。

郊外のホプキントンからボストンの中心部までのマラソンコース沿道は人々。柵がないから場所によっては応援の人がせり出し、選手は蛇行して走っている。エイドステーションは私設がほとんど。フィニッシュのブルデンシャルビルの前は立錐の余地がないほどの人波。歓声の中、次々にフィニッシュする選手たちが、あるところから渋滞の列になった。記録のためのチェックが間に合わないの順番待ちになる。このころの計時は



ボストンマラソン最多出場者(61回出場・優勝2回)ケリーおじさんは人気者



心臓破りの丘を走る山西哲郎氏。タイムは2時間37分1秒



ホプキントンをスタート



沿道は私設エイドがたくさん出る

すべて手作業だった。当時の日本は、福岡国際マラソンはエリート選手のレースとして海外からもこれを目指す選手がいる注目大会だったが、遅いランナーが出られる大会は、東は勝田マラソン(茨城)、西は福井中日マラソン(福井)くらいしかなかった。それらの大会を見てきた者にとって、ボストンマラソンの選手と市民、街が一体になった熱気はまさに圧倒的だった。いつかはこういう時代が日本にも来るだろうか。来るようにしたい。道筋になるであろう走る雑誌を必ず出そう、その思いが決心になった大会だった。(写真と文 橋本治朗・公益財団法人ランナーズ財団会長)



車いすはこの年から正式種目になった



1974年の優勝者ゴーマン美智子さん(中央の女性)、この年は出産直後で応援に。左の山本春枝さんは3時間8分35秒で女子11位。右は小幡キヨ子さん



プロの和太鼓集団、鬼太鼓座(おんでこぞ)は15人が出場。フィニッシュ後、ゴール横で大太鼓を叩いた



小沢征爾氏は1973年からボストン交響楽団の音楽監督になった。当日、会場で夫人の入江美樹さんと応援に

HOT NEWS

練習する日常を支える3つの新しい動きを紹介 /
走る場所、つなぐ場所、アップデートする場所。

RUNのある生活をつくる拠点、ALPEN RUN が明治公園に ALPEN RUN MEIJI PARK



オープン後のイベント企画告知 (の一部)。すべて参加費無料で、定員は抽選または先着式。左から、①神野大地さんの「神宮外苑5km・フォーム診断」、②シューズアドバイザー藤原岳久さんの「赤坂御所周辺9km・ペース走&シューズアドバイス」、③ALPEN RUNのスタッフと共に「代々木周辺5kmファンラン・最新のCloudmonster 3試走会」、④ランニングインフルエンサーさやびさんの「皇居周辺ロング走30km」

外苑エリアを走るランナーにとって、都立明治公園は通過点でありながら、どこか特別な場所だ。再整備が進み、広い空と緑が戻ってきたこの公園の真ん中に、4月24日、RUNコミュニティブランド「ALPEN RUN」1号店が誕生した。ここでは、単にランニング用品を販売する店舗ではない。「ランナーが生まれ、集まり、成長するための“RUN HUB”です」と水島店長は語る。

店内に足を運ぶとまず目に入るのは、厳選されたプロダクトの数々。グローバルブランドから注目のガレージブランドまで、「RUNを好きな人が欲しいものは何でも揃っている」ことを目指し、こだわり抜いてセレクトしたそうだ。自らも走る専門スタッフが、パフォーマンス提案を通じて「自分に合ったRUNを知る」ためのサポートを丁寧に行う。試し履きスペースも広く、緻密な足型計測やシューズフィッティングができ、実際に走って感触を確かめられるのがうれしい。

さらに、フォームチェックや接地の癖を見ながら、シューズだけでなく補給アイテムや、機能性タイツのようなウェアまで含めて総合的に相談できるのも特徴。走りの悩みや目標レースを伝えれば、「フォームもギアもアップデート」できる場所として、初心者から中級者まで頼れる存在になるだろう。

立地は、公園のランニング動線のすぐ脇。急に風が冷たくなった日のウインドシェル、すっかり忘れてきたソックス、補給食の買い足し——そんな“あるある”に即対応できるのは、走る拠点の公園内というロケーションならではの。

試走イベントやクリニックの開催も頻りに予定されているという。外苑エリアを走る人にとって、まさに「外苑ランの新しいハブ」というコミュニティの起点となっていきたい。

店舗名	ALPEN RUN MEIJI PARK
営業時間	11:00 ~ 20:00
所在地	東京都新宿区霞ヶ丘町 5-7 都立明治公園 C 棟
アクセス	都営大江戸線「国立競技場駅」徒歩9分、東京メトロ銀座線「外苑前駅」徒歩9分
公式Instagram	@alpenrun.meijipark : https://www.instagram.com/alpenrun.meijipark/

大阪・服部緑地内にランステ機能施設がオープン！ Hattori Ryokuchi BEACHTOWN



4月1日、大阪府豊中市の服部緑地に「Hattori Ryokuchi BEACHTOWN」がオープンした。

服部緑地は、外周を回ると約3km。北側の民家集落博物館付近には200~300mほどの緩やかな上りが続く、南側は下り基調。円形花壇を中心にした約2kmの周回も取れるため、ジョグの日も、テンポ走の日も、気分に合わせてコースを選べる。園外の歩道をつなげば10km以上の設定も可能で、季節の移ろいを感じながら走れるのが魅力だ。

今回、その園内に新しくできた施設、「BEACHTOWN服部緑地」施設内には、シャワーとロッカーが備わった「ランステ」機能がある（スタジオレンタル時は利用不可）。ヨガやピラティスなどの朝のプログラムもあり、コンディショニングにも使える。走る前のウォームアップや、脚を整えたい日の補強トレーニングに活用でき、ランナーにとっては“走るだけでは終わらない”時間をつくれる場所といえる。

施設外のウッドデッキには屋根があり、とても気持ちが良い。休憩スペースや集合場所としても使用可能。公園内にこうした拠点ができたことによって、服部緑地を走る日常はここを起点にさらに心地よくなっていくだろう。

※施設レンタル状況によりランステ利用ができない場合あり。団体での利用は一度クラブまでご相談ください。詳しくはHPもしくはInstagramをチェック。

店舗名	BEACHTOWN 服部緑地
営業時間	平日 10:30 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 休日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 16:00
定休日	火曜水曜
料金	ロッカーシャワー利用 平日休日ともに ¥770 / 人・日
所在地	大阪府豊中市服部緑地 1-6
アクセス	御堂筋線「緑地公園駅」下車、西口改札口から徒歩7分ほど
公式サイト	https://hattoriryokuchi.beachtown.co.jp/



“街を走る”ことの楽しさを発信し続ける TYCOON running



渋谷・スペイン坂に「TYCOON running」がオープンしたのは2025年5月。ランニングとストリートカルチャーを掛け合わせた、これまでにないコンセプトのショップだ。店内にはOnやHOKA、SATISFYなど、昨今のランニングシーンを勢いづけるブランドが並び、BGMはDISCO。走ることを“運動”ではなく“スタイル”として捉える姿勢が、店の空気にそのまま表れている。

この1年、TYCOON running は、渋谷の街を舞台にしたランニングカルチャーを積極的に発信してきた。象徴的なのが、毎週水曜20時に開催される「SOCIAL RUN」。予約不要で、仕事帰りにふらりと立ち寄れる気軽さが魅力だ。渋谷の街をゆっくり巡る約5kmのグルーパンは、初めての人でも参加しやすく、走りながら自然と会話が生まれる。20~60代まで幅広い年齢層が集まり、男女比は男性がやや多い。西尾店長によると、こういった自由で柔軟なコミュニティを求めて、外国人観光客の参加も頻りにあるという。

また、2026年春に全80ページのフリーペーパー「TYCOON running.zine」を創刊。90年代ストリート誌のテイストを出しつつ、最新シューズレビューやブランド特集、ランナーの物語まで詰め込んだ“紙のカルチャー”として話題を呼んだ。SNS全盛の時代にあえて紙を選ぶ姿勢は、とてもユニークだ。マラソンでもトレイルでもなく、“街を走る”ことにフォーカスしたショップは、日本ではまだ珍しいといえる。TYCOON running の発信に、これからも注目したい。



店舗名	TYCOON running (タイクーン・ランニング)
営業時間	11:00 ~ 21:00
定休日	なし。年中無休
所在地	東京都渋谷区宇田川町 13-17 ライズビル B1F
公式サイト	https://www.tycoonrunning.com





2026年「第36回ランナーズ賞」募集開始

ランナーズ賞は、市民ランニングの普及と発展に貢献してきた個人や団体、また、日々ランニングの新しい世界の発見に努めている人たちを称える賞です。受賞者には、正賞のトロフィーならびに副賞として賞金200万円を贈呈。自薦・他薦を問いませんので、ふるってご応募ください。



応募フォームはこちらから

応募受付 5月1日(金) ▶ 7月15日(水)

選考委員



2025年受賞者の声



左から、サロマ湖100kmウルトラマラソンの川田大会実行委員長、内藤事務局長、同じく受賞者の大森英一郎氏、岡崎芳彦氏

ただいま受賞記念碑を製作中 サロマ湖100kmウルトラマラソン

ランナーズ賞の受賞記念碑を製作中です！設置場所はフィニッシュ会場の北見市常呂町スポーツセンター、閉会式とフェアウェルパーティを行う百年広場。2026年大会(6月28日開催)までに完成予定ですので、大会の新しい“写真映え”スポットにご注目ください(大会事務局)



※ランナーズ賞を受賞した大会への副賞は、賞金200万円相当の記念碑の授与となります

50年後の社会を明るくすることにつなげたい 大森英一郎さん

ランナーズ賞の受賞後は、これまで以上に社会や次世代を意識した視点で仕事に取り組むようになりました。「もっと自由に、楽しく走れる世界」をつくることで、いま走っている方たちに喜んでいただくのはもちろんのこと、50年後を生きる方たちの社会を明るいものにできるよう、これからも自分の魂を燃やしていきたいと思っています。

誰もがジョギングしたくなるような環境づくりを 岡崎芳彦さん

ランナーズ賞を受賞し、たくさんのお祝いの言葉をいただきました。これからもコツコツと私にできる「ランニングを通じた社会貢献」をやっていきこうと心新たにしています。「動かんやあ、動けんようになるよ!」を多くの人に呼び掛け、いまよりも少しでも身体を動かすこと(歩け走ろう運動)を提唱していき、誰もがジョギングをしたくなるような環境づくりに山口の地で取り組んでいきます。

ランナーズ賞 歴代受賞者 ※敬称略

1988年の第1回から2025年の第35回までの間に、113人の個人、団体がランナーズ賞に輝きました

- 1988 ● 財津源吉 ● 熊本走ろう会 ● 日本体力医学会持久走大会同好会
1989 ● いなほ陸友会 ● 村本みのる
1990 ● 京都走ろう会 ● 波多野 斐 ● 山田敬蔵
1991 ● 梶栗 清 ● 鈴木隆子 ● 松本すすき川走る会
1992 ● 石沢重信 ● 羽咋走ろう会 ● 福岡大学体育学部運動生理学研究室
1993 ● 杉本博敬 ● 日比野敏行 ● 広島壮年走ろう会
1994 ● 佐々木 功 ● 小野幹夫
1995 ● 久保田 競 ● 星野敦志 ● 日本医師ジョギーズ連盟 ● 神奈川県走友会連盟 ● ホノルルマラソン
1996 ● 中富正義 ● 角田 進 ● 安芸百走会
1997 ● 柳川春己・伴走者 ● 比嘉貞男 ● 牛久走友会
1998 ● 平野 厚 ● 石井秀夫 ● 八代走ろう会
1999 ● ゴールデンゲームズinのべおか ● 大島幸夫 ● 竹上 進
2000 ● 高石ともや ● 天野耕兵衛 ● 藤本嘉信 ● 馬杉次郎 ● 武庫川スポーツクラブ
2001 ● 海宝道義 ● 日本横断リレーマラソン ● 羽生敏昭・雨宮輝也・野村隆平
2002 ● 福澤 潔 ● 愛走フレンズ ● 貝畑和子
2003 ● 阪本真理子・日本100マイルクラブ ● ぎふ長良川走ろう会 ● 横田昭夫
2004 ● 和田 彰・紀代子 ● 藤岡經子 ● 松田千枝
2005 ● 田中 一 ● 佐藤誠之
2006 ● 大阪府富田林養護学校・富養走友会 ● 折田兼隆 ● 李 正順 ● 高田龍二
2007 ● 木戸孝美 ● 島袋 勉 ● 星野芳美 ● 皇居ランニングコース(特別賞)
2008 ● 日本山岳耐久レース ● 奥川へとへとクラブ ● 斉藤登久代
2009 ● 永谷誠一 ● 佐藤光子 ● 佐藤喜八・十四子
2010 ● 比嘉良雄 ● 澁谷 信 ● アキレストラッククラブジャパン
2011 ● 徳島大学開放実践センターマラソン講座&徳島大学TJP ● 能渡貴美枝 ● 鈴木邦雄
2012 ● 桜井勝延 ● かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会 ● 錦木 毅 ● アトミクラブ ● 会田光一
2013 ● 谷口善昭 ● 若林順子 ● 東京夢舞いマラソン
2014 ● 阿南重継 ● 夜久 弘 ● 山地啓司 ● TDJ [TEAM DIABETES JAPAN: 日本糖尿病協会マラソンチーム]
2015 ● 小嵐正治 ● 関崎 豊・智琉 ● 越智利国
2016 ● 中野陽子 ● 平田久雄・陳 傳男 ● 和田伸也
2017 ● 田中英文、田中千尋 ● 山西哲郎 ● 松下耕太郎 ● 保坂好久 ● 月例マラソン
2018 ● 小島靖子・伊藤和雄・伊藤 明(三姉弟) ● 山崎常行 ● 大久保淳一
2019 ● 君原健二 ● 西島美保子 ● 株式会社カネカ
2023 ● 石井好二郎 ● 坂本雄次 ● 弓削田眞理子
2024 ● 豊岡示朗 ● 永井 恒 ● 富士吉田市陸上競技協会
2025 ● サロマ湖100kmウルトラマラソン ● 大森英一郎 ● 岡崎芳彦



会長 橋本治朗
理事長 野平 修 (公益財団法人ランナーズ財団)
理事 増田明美 (スポーツジャーナリスト) 福田六花 (医学博士、ミュージシャン) 安達知希 (株式会社電通) 船津智成 (公益財団法人ランナーズ財団)

評議員 前河洋一 (新潟食料農業大学 教授・陸上競技部 監督) 喜吉 憲 (キョシアンドパートナーズ株式会社 取締役) 小川孔輔 (法政大学 名誉教授) 築留康夫 (弁護士: 西村あさひ法律事務所)
監事 中田昭弘 (公認会計士)
名誉理事長 下条由紀子 (初代月刊ランナーズ編集長)

ランナーズ財団 NEWS 第3号 2026年4月30日発行
発行者 公益財団法人ランナーズ財団 〒106-0032 東京都港区六本木6-15-1 けやき坂テラス
印刷所 新星社西川印刷株式会社

© RUNNERS FOUNDATION, All Rights Reserved.



ランナーズ財団ではアルバイトスタッフを募集しています
ランニングやスポーツが好きの方歓迎!

勤務地: 東京都港区六本木
業務内容: PCを使った事務作業および軽作業
賃 金: 時給1,500円~(当財団規定による)
募集内容、お問い合わせはランナーズ財団のホームページをご覧ください



公益財団法人
ランナーズ財団